

こがねい

1998. 4月 第5号

放射能測定室だより

発行 小金井市放射能測定器運営連絡協議会
連絡先 小金井市梶野町1-3-17 大塚荘
Tel. 0422-54-0134 (荒木)



昨年10月の消費生活展において展示の機会を得ました「チェルノブイリの子ども達の絵画展」をご覧になりましたか？ 原発事故から12年目を迎えるチェルノブイリでは小児甲状腺ガンが増加し続けています。犠牲者である子ども達が描いた放射能被害の絵は、その絵筆の跡を通して私たちの胸を強く打つものでした。

汚染を受けた地に暮らす人々を忘れることなく、今年度も測定を続けていきたいと考えております。

97年度 私達の活動 より

私達協議会では市民の方から測定の依頼を受けた食材を測定するほか市内の学校、保育園での給食材料を測定していくことを中心に活動しています。発足当初は向き合っただけで目が点になった測定器とも8年の付き合いになりました。月に一回の定例会で測定の当番を決め、測定結果の検討、その他活動全般についての細かな打ち合わせ等を行っています。'97年度を振り返り、この1年間の測定外活動の内、主なものをまとめてみました。

'97年

5月 「アースデー」に参加

動燃東海村の事故について経過等をまとめたパネルを作成、展示。

9月 緊急体制マニュアル作成に着手

三月の動燃事故の際、急遽臨時の測定を行う等の対応をとりましたが、緊急時の体制作りの必要性を強く感じたため、マニュアルを作ってみることになりました。「緊急時」はいつくるか判らない、という現実にも備えたいと考えています。

10月 「消費生活展」に参加

チェルノブイリ子ども基金からお借りしたチェルノブイリの子ども達の絵画(原画)を展示。会場で同基金への募金が9000円近く集まりました。

10月 「なかよし市民まつり」に参加

毎年おなじみになった協議会のリンゴ売り。リンゴは青森県で低農薬リンゴを作っている伊藤さんから。トリもも肉ともどもおかげ様でほとんど毎年完売です。売上の一部は「チェルノブイリに放射能測定器を送る会」にカンパして参りました。毎度ご協力いただき、有り難うございます。

98年

1月 学習会 「'97 京都会議の報告」 を開催

講師としてNGOの立場から京都会議に出席された市民エネルギー研究所の安藤多恵子さんにおいでいただきました。

お話の内容は..

京都会議がいかにか国際的ネゴシエーション(交渉)の場としてあったか、というお話をきくことが出来ました。排出量を減らしたくない国が途上国の排出権を金で買うという排出権売買取り引きの話、環境をビジネスの格好のタネにする先進国の産業界の話、また共同実施活動(排出量を減らせる技術を開発し、その技術を共同プロジェクトで途上国にも使わせた場合は、支援した分途上国の排出権を譲ってもらうという内容)の話等々。これらを聞いているとCO₂削減に向けて各国は果たして本当の意味で歩み寄っているのだろうか? という疑問を持たざるを得ません。NGOの一団体として参加した市民エネルギー研究所としては、「CO₂問題に対しては、こんなにエネルギーを使う今の暮らしにNOと言うことではない。原発に対しても同じです。」という考えである、ということでした。

参加した会員の感想

安藤さんのお話しはとてもわかりやすく、2時間の学習会があっという間に過ぎました。この日から私自身も新聞とか雑誌で環境の文字が目につくようになり、関心が深まりました。一人一人の自覚がとても大切なことで多くの人にこのような講演会に参加して意識を高めてもらうことがとても大事なことでだと思います。

98年

2月 学習会「CO₂の削減とこれからのエネルギーの在り方」
を開催

講師として東大アイソトープ総合センター研究員であり「チェルノブイリに放射能測定器を送る会」のメンバーである小泉好延さんにおいでいただきました。

お話の内容は..

CO₂を減らすには、

- ①エネルギー使用量を抑制し排出量を減らす。
- ②エネルギー使用量を減らすことなく、効率を上げることにより実質的に排出量を減らす。
- ③かわりに原子力エネルギーを使うことによりCO₂の排出量を減らす。

といった方法があげられていますが、欧州では現在①の方向に少しずつシフトしています。小泉先生は数々のデータを使って私たちが今現在、過去と比較してどれだけ大量の資源・エネルギーを消費する社会に生きているか、また、今後CO₂を削減しつつ原発をも廃止していくというシミュレーションを試みた場合、電気供給計画に負担をかけずにこれを達成できるということを示して下さいました。

CO₂排出抑制の為には今後原発を20基程度増設するしかない、とする日本政府の主張は、結果として放射能汚染の拡大につながり、環境総体で考えみると何の意味もないというお話は強い説得力を持つものでした。

それにしても日本政府が国家予算の内、原発の研究、開発の為に年間5000億円もの助成金を使っているとのお話には一同びっくり。ちなみに自然エネルギーの研究費は原子力研究費の8.5%と極めて少ない、というのが現状です。

98年

2月 「消費者ルームまつり」で測定室を公開
パネルも展示しました。

3月 講演会「チェルノブイリからの便り」
—その救援活動を聞く— を開催
講師として「JCF/日本チェルノブイリ連帯基金」
(本部：長野県 松本市) 事務局で活動されている神谷さだ子
さんにおいでいただきました。

お話の内容は..

'91年からチェルノブイリ救援活動を続けてこられたJCFのこの間の支援活動を現地では撮影したビデオを交えて伝えていただきました。現地では事故後放射能被爆による甲状腺疾患、白血病が年々増加。地中に残った放射能が農作物やミルクを通じて体内に入ることでの被爆もあり、子どもの被害者が多く報告されています。JCFでは治療上の支援だけでなく、現地の人々との交流を深めるための活動、被害の実態の調査等、信州大学医学部の先生方ほかたくさんの方々の協力を得て、着実な成果を挙げてこられました。今回のビデオでは日本人スタッフと現地スタッフが共同で白血病治療の為に手術に取り組んでいる様子を見せていただくことができました。現地ベラルーシとは施設、設備事情の相違、医療現場のシステムの違いがある上に、加えて、医薬品、医療物資の欠乏、言葉や習慣の壁等、さまざまな困難とともに7年間の活動があったことがよくわかりました。成果のひとつとして、'91年当時は10%以下だった当地の白血病完快率が'94年には70%を超えた（日本では90%以上だということです。）というお話には胸が熱くなる思いが致しました。JCFでは、当地の医療レベル全体を上げていくほか、医療技術を向上させていくという面でのバックアップにも力を注いでいきたい、今後は患者の家族のケアも考えていきたい、ということでした。

1997年度 測定結果一覧表

(1997.4月～1998.3月)

測定品目	種	原産国	測定結果 (ベクレル/kg)
乳製品 (牛乳・モザレラチーズ 粉ミルク・スモークチーズ スキムミルク・珈琲用粉ミルク)	8	日本・ドイツ・オランダ	放射能は 検出されませんでした
きのこ (干し椎茸)	1	中国	"
(")	1	日本	32.87 (セシウム)
(")	1	日本	22.54 (")
茶 (葉草茶・シヤスミン茶 紅茶・緑茶)	6	日本・中国 スリランカ・インド	放射能は 検出されませんでした
海藻 (わかめ・とろろ昆布)	2	韓国・日本	"
小麦粉 (小麦粉・スパゲッティ ふすま・うどん・マカロニ)	8	日本・イタリア	"
調味料 (味噌・ケチャップ)	2	日本	"
野菜類 (干し芋・葉物・米)	3	日本	"
蜂蜜	1	ニュージーランド	"
あひる肉缶詰	1	フランス	"
片栗粉	1	日本	"
ココア	1	日本	"
コーヒー	1	日本	"
クッキー	1	日本	"
ワイン	1	フランス	"
煮干し	1	日本	"
プリンミックス	1	日本	"
きな粉	1	日本	"
レトルトきのこリゾット	1	日本	"
チョコチップ	1	日本	"
香辛料 (胡椒・胡麻)	2	アメリカ・日本	"
(1986年産ローリエ)	1	不明	428.95 (セシウム)

計 47件 (他に保育園給食材を15件、学校給食材を14件)
計29件測定)

☆セシウムはチェルノブイリ事故により大量に放出された放射能です。

(過去のピキニや中国での核実験により地表に蓄積されている放射能でもあります。)

☆NaI検出器にて6時間測定しました。

- ㊦ 表紙でご紹介したチェルノブイリの子ども達の描いた絵を、彼らの詩とともにまとめた本が出版されています。
『生きていたい -チェルノブイリの子ども達の叫び-』
(「チェルノブイリ子ども基金」・編 小学館・刊)
印税は治療費、保養費として現地に送られるということです。

- ㊦ 昨年末に東京でもロードショー公開された日本・ベラルーシ合作映画「ナージャの村」が話題を呼んでいます。
3月に松本から講演に来て下さった神谷さだ子さん(5頁参照)はこの映画に製作段階から携わってこられました。現在全国各地で上映運動が展開されています。たくさんの方にこの映画と出会ってほしいと願っています。

- ㊦ 協議会では会員を募集中です。見学、お問い合わせ等お気軽にどうぞ。

CLIPPING コーナー

98.1.22.朝日しんぶん
より

イタリア産キノコ
基準値超す
放射能検出

厚生省は二十一日、イタリアから日本に空輸された食用キノコの「乾燥ポルチーニ」から、基準値以上の放射能が検出された、と発表した。一九八六年のチェルノブイリ原発事故で放射能に汚染された食品が輸入される恐れが出たため、同年から検査所で水際検査を行っているが、基準値を超える食品が見つかったのは九四年十一月以来。

厚生省によると、今月十日に成田空港に着いたイタリア産乾燥ポルチーニから基準値の約二倍に当たる一*当たり七三・一ベクレルのセシウムが検出された。同省は食品輸入業者に対し、空輸した計二十一*ケラムのポルチーニをイタリアに返送するよう指示した。

↑
今人気のポルチーニ茸から...!

▶ 測定依頼をお寄せください!!

申し込み方法等は でお知らせしております。

お願いいたします!

なお、実際に測定にかかってみたい方、
 月に協議会に参加したい方、いつでも募集して
 いますのでご連絡ください。大歓迎です。

はかってほしい時は

1 市役所経済課にお問い合わせの
 てんわをしてください。

0423-83-1111
 内線 279 (経済課)



2



測定日の指定が
 あります。

CRAB
 に交えて
 ください

3

指定日の朝9:00に検体(はかりたいもの)を
 市庁舎に持参し、協賛会測定者に
 わたします。*検体は早く(だいておくこと)



4



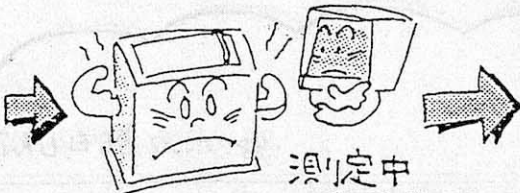
測定日に
 必要事項を記入。

5

夕方、検体を引き取りに来てください。
 測定結果を記入した測定票をお返し
 ください



* 370cc以上が検出された場合は別途
 希釈測定を行ないますので、持参
 いただいた検体は返却できません



測定中
 6時間測りまわす。

★ 200ccの容量が重要です。
 (スリッパでは150ccくらいなど
 生しいでは210ccくらい)など
 量によって差が異なる4種類ので
 協賛会に問い合わせてください。



← 容量100cc
 の容器に
 測定します。

★ 食品に限ります。

★ 無料です。

